

麻里布製油所における電力卸供給事業の営業運転開始について

各位

当社(社長:渡 文明)の精製子会社である新日本石油精製株式会社(社長:掛札 勲)は、麻里布製油所(所長:松原 雄一)において、本日(2004年4月1日)より電力卸供給事業の営業運転を開始いたしましたのでお知らせ致します。

本発電設備は2002年9月に建設を開始し、卸供給設備としては、石油コークスを燃料としている点、振替供給を用いている点で日本初の設備となります。

- (1) 発電所所在地 山口県玖珂郡和木町(くがぐん わきちょう)
 (2) 契約最大電力量 13.2万kW
 (3) 電力供給先 関西電力 関西電力
 (4) 契約期間 15年(2004年4月1日～2019年3月31日)
 (5) 使用燃料 石油コークス、残渣油(アスファルト)
 (6) 発電方式 ボイラータービン発電
 (7) 運転パターン ベース対応(利用率70%)

新日本石油グループは「総合エネルギー企業」を目指していく中で、1998年7月の大阪製油所(*) (供給電力量:13.0万kW)を皮切りに2000年6月の横浜製油所(供給電力量:4.9万kW)、2003年6月の根岸製油所(供給電力:34.2万kW)、今般の麻里布製油所、ならびに本年10月には室蘭製油所(供給電力量:5.0万kW)の卸供給開始を予定しており、合計5製油所において、70万kWを超える電力卸供給事業を展開していく予定です。

(*) 関西電力殿への余剰電力購入契約による販売

以上

新日本石油グループ電力卸供給事業の取り組みおよび麻里布製油所概要

・当社グループ電力卸供給事業(IPP)の取組状況

	供給電力量	使用燃料	供給先	供給開始時期	発電方式
大阪製油所	13.0万kW	残渣油	関西電力	1998年 7月	BTG *1
横浜製油所	4.9万kW	分解軽油	東京電力	2000年 6月	GTG *3
根岸製油所	34.2万kW	残渣油	東京電力	2003年 6月	IGCC *2
麻里布製油所	13.2万kW	石油コークス 残渣油	関西電力	2004年 4月	BTG *1
室蘭製油所	5.0万kW	残渣油	北海道電力	2004年10月	BTG *1
合計	70.3万kW				

*1: Boiler Turbine Generator(ボイラー＋スチームタービン)

*2: Integrated Gasification Combined Cycle

(ガス化設備＋ガスタービン＋廃熱ボイラー＋スチームタービン)

*3: Gas Turbine Generator(ガスタービン)

麻里布製油所 概要

麻里布製油所は、山口県の最東端に位置し、瀬戸内海に面した穏やかな地である和木町に、1943年に操業を開始しました。新日本石油グループの日本での最西端製油所として、中国、四国、九州、北陸地方に石油製品を供給するという大事な使命を担っています。

より高度化した石油精製装置群を有していますが、特徴としては、通常の製油所にはない石油コークス製造装置を備え、電気炉電極用高品質コークスは、世界で10%程度のシェアを占めています。

- ・所在地 : 山口県玖珂郡和木町
- ・操業年月日 : 1943(昭和18)年12月
- ・敷地面積 : 66万m²
- ・原油処理能力 : 12.7万バレル/日
- ・既発電設備能力: 2.8万kW